

## クラウド ストライク ホールディングス A(CRWD)

【セクター】 ソフトウェア

【市場】 NASDAQ

## 【企業概要】

元マカフィーの技術者らが2011年に創業したサイバーセキュリティ企業です。同社の「Falcon」プラットフォームは、エンドポイントにインストールして不正を検知する軽量なエージェント、これと連携してサイバー攻撃への対応策を提示する脅威インテリジェンス、また、脅威ハンティングのサービスなどからなります。19年1月末の顧客が2,516社あり、「フォーチュン100」のうち44社、グローバル企業トップ100社のうち37社、大手銀行トップ20行のうち9行を含みます。19年6月12日にナスダック市場に新規上場、公募価格は34ドルでした。

【業績】（単位：売上、純利益は百万ドル、EPS、DPS、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%）

決算期	売上高	純利益	EPS	DPS	BPS	ROE	自己資本比率
18年1月期	119	-141	-	-	-	-	-8.5
19年1月期	250	-140	-	-	-	-	17.2
20年1月期予想	467	-77	-0.52	0.00	4.1	-20.0	-

※EPS：1株当たり利益、DPS：1株当たり配当、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

## 【主要指標】

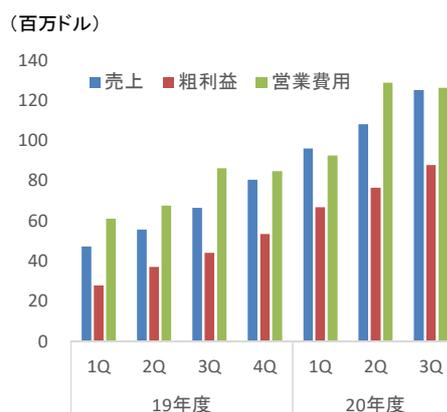
図表1 サイバーセキュリティ業界の時価総額上位

銘柄(コード)	時価総額 (億ドル)
パロアルト ネットワークス(PANW)	237
フォーティネット(FTNT)	201
ノートンライフロック(NLOK)	175
チェックポイント ソフトウェア テクノロジー(CHKP)	173
クラウド ストライク ホールディングス(CRWD)	130
Zスケラー(ZS)	76
トレンドマイクロ (4704)	75
プルーフポイント(PFPT)	70

注：2020/1/17の株価によります。

(出所) BloombergデータよりSBI証券が作成

図表2 四半期業績推移



(出所) 会社資料よりSBI証券が作成

## 【会社の見方】

サイバー攻撃に対する防御として、ネットワークへの侵入を防ぐやり方と、エンドポイント（情報端末）で不正な動きを検知するやり方がありますが、標的型の攻撃が増えたことでネットワークへの侵入を完全に防ぐのは現実的でなくなり、エンドポイント保護の重要性が増していると言われます。ガートナーが公表した18年11月付レポートで同社は、エンドポイント保護のプラットフォームを提供する分野でリーダー企業と評価されており、業界で競争力をもつサービスを提供していると考えられます。

## 【見通し・注目点】

四半期業績は、売上、粗利益が直線的に伸びる一方営業費用の増加は鈍化しつつあり、黒字転換の軌道に乗っていると考えられます（図表2）。同社はこれまで主に大企業に対する直接販売で売上を伸ばしてきましたが（既存顧客の3分の2は従業員1,000名以上）、中小企業に対してはWEBサイトでのフリートライアルによるマーケティングを採用する方針で、これが同社の売上・利益成長にどのようなインパクトを与えるか注目されます。19年11月-20年1月期の決算を2/14（金）前後に発表の見込みです。

(SBI証券 投資情報部 榮 聡)

(更新日 20/1/22)

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。